

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	ヨルダンにおける青少年の健全な育成 当該報告期間に実施した質問表調査からは青少年らに肯定的な変化が表れていることが確認できており、上位目標の達成にむけ、一定の成果が出ているといえる。(参照 (3)「達成された成果」)
(2) 事業内容	(イ) コミュニティ参画プログラム 週 5 日の活動日において、14～18 歳の青少年 39 名(計画時想定人数 40 名)が奉仕活動やワークショップの企画・立案、及び実施までの一連の過程について、エデューケーターによるトレーニングを受講。そこでの学びを基に、実際に地域での奉仕活動(例 センター清掃、孤児院訪問)を実施した。また、裨益者送迎用バス運行時には年少の子どもたちの乗降をサポートするなど、年長の青少年によるアシスタント制を導入、青少年らがセンター運営の一旦へ関与した。 (ロ) ユースセンター職員研修 研修(2012 年 6 月 11 日～13 日に実施予定)参加候補者を選出するため、現地提携団体より推薦された地方 23 箇所のユースセンターを巡回。その間、各センターの現状・課題、研修内容への要望を把握するための質問表調査を実施、その結果を踏まえ研修の内容を検討・精査した。 (ハ) ノンフォーマル教育 英語、スポーツ、演劇、音楽、美術、ストーリーライティングの各クラスを週 5 日、一学期三ヶ月制で実施、第二学期までが終了した。その間、8～18 歳の青少年 456 名が参加した(計画時想定人数 360 名【180 名×2 学期】)。クラスの成果については、各学期の最後に開催した成果発表会で保護者及び地域住民へ披露、また専用 WEB サイト(www.1001stories.asia)上でも掲載した。

(3) 達成された効果	(イ) 青少年に対する地域住民の理解促進及び参画 当該報告期間中、孤児院訪問を2回、週5日の通常の活動日において随時、センター環境整備のための植林や清掃活動を実施した。こうした活動を通し、青少年らの主体性やリーダーシップの発揮を目の当たりにした保護者からは、「青少年らに地域社会への帰属意識が強まると同時に、地域が抱える問題を社会へ提起、その対処へ貢献しようとする姿勢が高まった」との反応が得られた。また、コミュニティ参画プログラム成果発表会時に実施した保護者向け質問表調査結果では、その9割が、青少年による活動が地域を取り巻く問題の改善に向けた有効な手立てとなり得ることを認識したと答えた。以上から、本事業により、青少年活動に対する保護者の理解が深まったといえる。さらに、コミュニティ参画プログラムに参加する青少年のうち6名が裨益者送迎用バスのアシスタント、39名が成果発表会や遠足といったセンター行事の運営側に関わるなど、年長の青少年らのセンター運営への積極的関与が確認できた。 (ロ) 青少年活動におけるユースセンター職員の意識及び能力の向上 当該効果については、2012年6月研修実施後に測定。 (ハ) 青少年への教育効果 各学期終了時に実施した質問表調査の結果、センターでの活動を通し、9割強において新しい知識の獲得やスキルが向上、7割が異なる国籍や出身地の友人を持つようになったことが確認できた。さらに、回答した青少年からは、物事を以前より深く考えられるようになり、自分の考えをクラスメートに表現することに抵抗がなくなったとの声や、成果発表を通し内面が強くなることで、学校生活においても積極性が生まれたとの意見が聞かれた。このことから、センターでの活動が青少年らの自己表現能力を促進させると共に、諸活動への参加を通して自信を持つようになるなど、青少年へ肯定的な変化を及ぼす一助となったといえる。
-------------	---

(様式3)

(4) 今後の見通し	(イ) コミュニティ参画プログラム 本半年間を通し、特に成長がみられたとエドゥケーターが判断した青少年4名がエドゥケーターアシスタントとなり、講義やアクティビティの実施補佐を担当していく。また、保護者対象のワークショップを計4回実施、これまでの半年間トレーニングを受けた青少年が、エドゥケーターの指導のもと、その企画・立案、実施運営を担う。その際、当該事業第1期で同種のワークショップに参加した保護者の参画も促す。上述の取り組みを通し、青少年並びに保護者による青少年活動運営への更なる参画を目指す。 (ロ) ユースセンター職員研修 研修を通し、青少年活動の企画・立案及び実施について当団体が有するノウハウを地方のユースセンターへ指導。その成果を各センターでの次年度行動計画に反映させるべく、研修での学びに基づく、各センターによる青少年活動の企画書作成を試みる。研修後は、ユースセンター本部と国境なき子どもたちによる合同のモニタリング及びフォローアップを継続実施、研修の成果の定着を促していく。 (ハ) ノンフォーマル教育 残り事業期間内に二学期を開講予定。引き続き、各クラスの成果を発表会並びに専用WEBサイト上で披露、広く地域一般へ発信していく。
-------------------	--